



上／人を導き、自然を迎え入れる優美な曲線を描くアプローチ。
 中左／珪藻土の表情が柔らかな階段ホール。中右／家をアートに見立て、ディテールにもこだわったホール。(同上) 下／一続きになった床面のレンガが住宅を囲む木々の緑を呼び込む中庸的な空間を演出しているエントランスポーチ。(同上) 撮影／安達 治

建築家が創るHOPデザイン。

住まいの美しさとは何か。住む人の生き方を表現し、豊かに暮らしていける住まいとはどんなものなのか——。HOPの家づくりは、常にその視点を念頭に置きながらスタートする。

住む人の思い、その個性によって、住まいはさまざまな姿を見せる。しかし、どんな家であっても美的であり、かつ、心地よく、健康的で、そしてライフスタイルの変化に寄り添って年を経ているものでなければならない。

HOPは国産材を徹底して使用することで木材の利用率を高め、植・育林のサイクルを進めて、森林の荒廃に歯止めをかけたいという思いも強く抱いている。木材を使って家を建てることで、森林が吸収した二酸化炭素を定着させることができ、快適な環境を守ることもつながる。HOPグループが掲げる「森を建てよう。」という理念には、そうした目的とともに、あたかも「森に住まう」かのような心豊かな住まいをつくりたいという考えも含まれている。

それは、優れたデザインと、美的な発想を形にし、同時に高い品質を確保するための技術力を持つことを前提とする。無垢材を活かす、古来からの木造軸組工法を土台にしなが、独自のHOP工法により強度と耐久性を在来工法の2.5倍にも向上させている。

家族とともに時を重ね、それぞれの暮らしにフィットする空間を形づくるために整えた、設計から施工までの一貫した体制。室内の造作から小さな金具ひとつまで、神経を研ぎ澄ませて手づくりするこだわり。家族が語り合い、思い描く夢や憧れを大切に受け止め、実現するバックグラウンドがそこにはある。デザインの底流にあるのは、伝統的な美に対する造詣と、現代に息づくモダンな感覚。そのいずれもが、HOPの真骨頂といえる。

こうした思想のもと、HOPは東京、神奈川、軽井沢をはじめ全国でその独自の住まいづくりを展開している。



石出 和博

Kazuhiro Ishide
 建築家
 一級建築士事務所アトリエAM代表取締役所長
 HOPグループ代表 CEO

89年一級建築士事務所アトリエAM(株)設立、全国で作品を発表。
 96年林野庁と北海道の支援を受け、新しい住宅供給システムHOPを設立
 育て上げた。97年グッドデザイン北海道、2001年林野庁長官賞、
 2006年経済産業大臣賞、(消費者志向優良企業)など。著書に「家を
 建てる前に読む本」ハウズクター診察室(2005年刊) 石出和博とアトリエ
 AMの世界(2008年刊ART BOX社)などがある。

2010年経済産業省JVA環境特別賞受賞

HOPグループ
 設計:アトリエAM株式会社
 企画・施工:ハウジングオペレーションアーキテツ株式会社
 ※HOP住宅作品集をさし上げます。右記までお問い合わせください。

☎0120-55-2486
 www.hophouse.co.jp
 HOP 検索



伝統の技術により日本建築の美しさを体現した空間に、シンプルモダンで上質なインテリアがみごとに調和したリビング。障子(右手)を開ければ「自然を映したような庭を」というオーナーの希望を反映した、杉や小川を配した庭が現れ、心地よさを運ぶ。



床板や壁は皮付き赤松、ほかはすべて無垢の杉材と、京都産の木材を贅沢に使用した茶室。「普段の生活のなかにお茶の世界を取り込み、子どもにも楽しませたい」という意図から、離れ形式の茶室とはせず、リビングの延長線上の位置に設けている。

インテリアデコレーター／橋田 美幸 庭師／平井 孝幸(石正園)

HOP
 Housing Operation Project Group

ハウジングオペレーションアーキテツInc.
 HOP東日本 横浜市西区みなとみらい2-3-1クイーンズタワーA棟 7F
 HOP札幌 札幌市中央区北4条西21丁目2-1 FUJITA BLD.
 横浜・札幌・京都・旭川・帯広